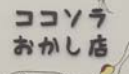


このスポット・おすすめ!

パティシエ夫婦が営む洋菓子店
ココソラおかし店



伝えたいおいしさを菓子に込めて 5月は母の日ケーキを販売予定

読谷村瀬名波の住宅街に、パティシエ夫婦が営む洋菓子店が今年3月にオープンしました。ご主人の関塚伸介さんは、ホテル日航アリビラで長年パティシエ責任者を務めた腕の持ち主で、今回の独立を機に、かつて東京のホテルなどで働いていた奥さまの恵さんが、十数年ぶりに戦列に復帰しました。伸介さんは「ホテル時代と比べて、お客さまとの距離がとても近くて新鮮ですね」と開店の喜びを語り、恵さんは「この仕事がいっぱい好きだったんだなあと再認識しました」と笑顔。そんなお2人が作る洋菓子は、一口でも食べられて、小さな子どもから年配の方まで幅広く利用してもらえるように、丁寧においしいお菓子を作っています」と夫婦でこやかにPRしています。

店頭には生菓子が約6種類、焼き菓子が約25種類並び、ショークアイスの中にはショートケーキ、チーズケーキ、シュークリームなどなじみ深いケーキが勢ぞろい。新作や期間限定の菓子も不定期で登場し、「メニューの引き出しはたくさんあります。お店の中を埋め尽くすくらい、いろいろな商品を定番化していけたらうれしいですね」。

5月は母の日(14日)に合わせて特製ケーキ「プリンセス」(仮称)を販売予定。最新の情報はフェイスブックやInstagramでも公開しているとのこと、ぜひチェックしてみてください。

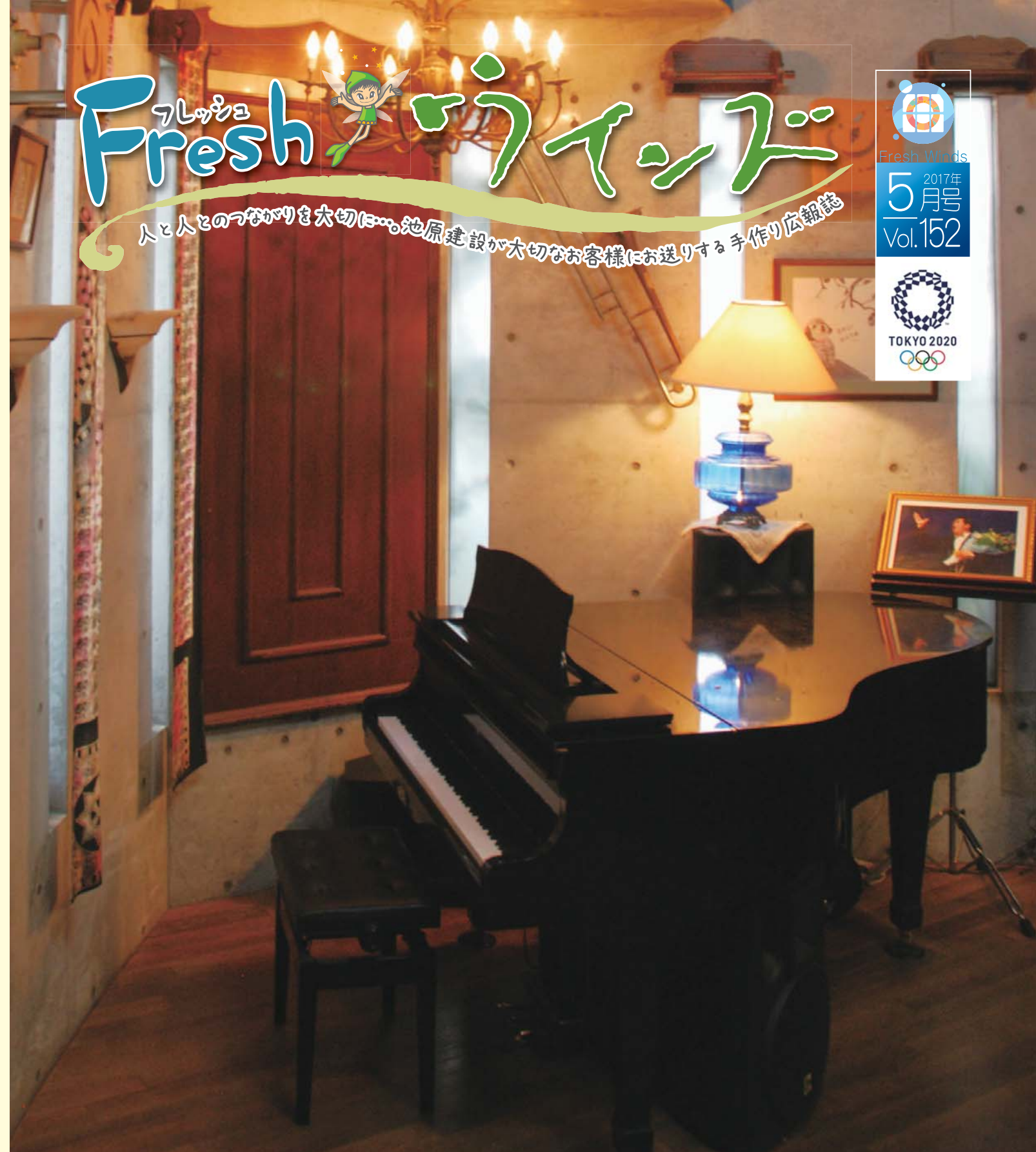
住所 / 読谷村瀬名波678-1
電話 / 098-987-8713
営業 / 11:00~19:00
休み / 火曜日、第1・3水曜日
駐車 / 5台

(おもなメニュー)
* ココソラプリン 450円
(お店一押しのお菓子です)
* フルーツロール 450円
(フルーツを生クリームとカスタードで巻きました)
* シュークリーム 350円
(弾けるクリームに笑顔も弾ける)
* チーズケーキ 450円
(濃厚なチーズの風味がたまらない)
* ココソラレモンケーキ 200円
(生地にもレモンを練り込んだ本格派)



フレッシュウインズ

人と人とのつながりを大切に、池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『ココソラおかし店』で使える



3組様

小学生のこども1人1台プロジェクト...
Q 小学校に入学すると入れるようになるドアってなんですか?

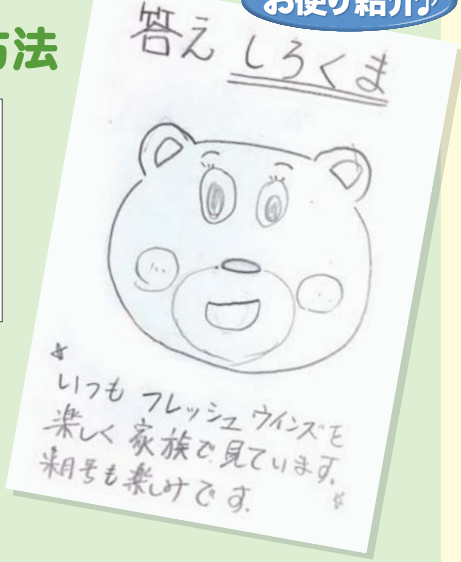
ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ウインズ『広報誌係』

裏 ⑦ご意見 ご感想

⑥ さまざまな答え



応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2017年5月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.153)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)

- 4月号当選者 前号の答え(シロクマ)
- ★山井 千栄子さん(読谷村在住)
 - ★喜屋武 勉さん(うるま市在住)
 - ★仲村 咲希さん(読谷村在住)



0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

今月の歳時記

- 5月3日(水)~5日(金) 第43回 那覇ハーリー
会場・開催地/那覇港新港ふ頭
- 5月3日(水)~7日(日) 沖縄こどもの国フェスティバル2017
会場・開催地/沖縄市・沖縄こどもの国
- 5月13日(土) 第17回 沖縄音楽市2017
会場・開催地/沖縄市・ミュージックタウン音市場 3Fホール
- 5月29日(月) 糸満ハーレー
会場・開催地/糸満漁港中地区

ゴールデンウィーク期間中は県内各地でイベント・行事がめじろおし。夏の訪れを告げる那覇ハーリーをはじめ、5月5日のこどもの日にちなんださまざまな催しが開かれます。連休が明けると今度は梅雨の時期。昨年の梅雨入りは5月16日ごろ、平年は5月9日ごろです。





ストリートストーリー

Street Story!

音楽とわが身は一心同体。「声」だけで勝負を挑んだヨーロッパ時代 オペラ歌手・知花章さんと振り返る、歌と歩んだ半生の記



■現役のオペラ歌手として数々のコンサートを企画・開催するほか、幅広いジャンルの音楽に精通し、声楽教師・ボイストレーナーとしても活躍。プライベートでは趣味の世界に全力投球するなど、旺盛な活動意欲はとどまることを知りません

1980年代後半にオペラの本場ヨーロッパで数多くの舞台を踏み、現在は故郷の読谷村を拠点に音楽活動を続ける知花章さん。読谷村長浜にあるスタジオを訪ね、ユニークな生活を送るプライベートな横顔を交えながら、オペラと音楽に懸けた半生を聞きました。



知花章さん

ヨーロッパで過ごした80年代 憧れのオペラの舞台に立つ

目の黒い一人の東洋人が、オペラの舞台に現れる。場所はクラシック音楽の本場、オーストリアの首都にあるウィーン室内歌劇場。はじめは気に留めることなく眺めていた観客たちも、力強く艶やかなベルカントが響き渡ると、ハッと息をのんで隣席の人とささやき合う。「あの



■今年4月15日に行われた「第2回熊本震災チャリティコンサート」の一コマ ■池原建設の新年会でも毎年すてきな歌声を披露いただいています

は読谷村長浜を拠点に音楽活動をしている知花章さんは、「私にとってオペラは特別なもの。生まれ変われるとしたら、たとえ田舎でもいいから、どこかヨーロッパでオペラ歌手として生きていきたい」と懐かしみます。沖縄に戻ってからも精力的に活動を続け、例えば82年に上演された沖縄初の本格的なオペラ「夕鶴」や、92年に東京二期会と共同で制作された大史劇「百十踏場」では主役を好演。2000年に読谷村文化協会5周年記念委託作品として制作した創作オペラ「吉屋チル物語」は、脚本、作詞、作曲、演出、主役を知花さん一人でこなし、意欲的な作品で、その後05年に沖縄コンベンションセンターで再演されるなど、大きな評判を呼びました。



■創作オペラ「吉屋チル物語」では多彩な才能をいかんなく発揮

歌に対する純粋な情熱と 超えられない壁の厚さ

「音楽と私は一心同体」と話す知花さんが、歌の魅力に取りつかれたのは小学生の頃。たまたま見た米国人向けのテレビ番組で、男性の演者がオペラを歌うシーンが心に残り、「ある雨の日に傘を差しながら、似たような声を出したところ、傘に反響したせいもあったのでしよう、あの歌手の声と同じに聞こえたんです。それで勝手に「自分の声は西洋のオペラ歌手と変わらない」と思い込み、やがて歌の世界にのめり込んでいきました。

知花さんが親しんだのはオペラだけではなく、日本の唱歌・歌謡曲をはじめ、イタリアのカンツォーネ、フランスのシャンソン、アメリカのポピュラーソングなど、さまざまなジャンルの曲を難なく歌い上げ、高校生の頃は「米軍基地内のナイトクラブやダンスホールで、フルバンドをバックに歌うポピュラーシンガーになるのも悪くない」と考えたこともありました。しかし本土復帰とともに沖縄のバンド音楽は下火になり、漠然と「音楽の教員になろう」と音楽大学へ進学。そこで改めてオペラの魅力に目覚め、クラシック歌手の道を歩むことになりました。ヨーロッパ時代の経歴は前

段で紹介した通りですが、志半ばにして沖縄へ戻る決断をした理由は主に2つあります。一つは、滞在中にウィーンで2人目の子どもが生まれ、小さな歌劇場の収入だけでは一家4人の生活を支えることが厳しくなったこと。「妻は私たちがただ沖縄へ帰るから、あなたにはもう少し夢を追い続けてほしい。収入のめどが付いたら、再び呼び寄せてもえればいいから」と言ってくれたのですが、音楽と私が一心同体であるように、子どもたちも私の一部分。家族と離れて暮らす生活は、到底想像できませんでした。そして、もう一つは、どんなに技術を磨いても、決して乗り越えられない文化的・歴史的な壁があると痛感したこと。歌の実力、声自体は認められても、微妙な発音のニュアンスや、東洋人・西洋人という外見上の違いまでが評価されるため、どうしても努力には限界がありました。それが「生まれ変わったら今度はヨーロッパで」との思いにつながっているのです。

年を重ねても衰えない好奇心 人生を懸けたもう一勝負を期待

知花さんは現在65歳。年齢に応じた歌の技術をストイックに追究する一方で、音楽を

離れたプライベートな生活では、「仕事と趣味の両面で、毎年必ず新しいことにチャレンジすると決めていきます。ここでいう仕事とは、音楽と無関係の「アルバイト」のことで、ホテルのフロントで働いたり、夜間の清掃員をしたり、レストランでウェイターや皿洗いをしたり、時間の合間を縫ってさまざまな職業を体験してきました。趣味の分野も多岐に渡り、陶芸、木工芸、紅茶をはじめ、最近では競技ダンスを習うなど、忙しい毎日を送っています。



■喉の強さと歌のテクニックは天性のもの。「いつでもスタンバイOK!」とレストランで歌う知花さん

興味深いのは、これらは決して「芸の肥やし」のためではないことです。経歴と実績を鑑みれば、清掃員や皿洗いのアルバイトをすることなど一般的な教育現場で後進の指導にあたる道もあるはずだ、と思うのが、世間一般の常識でしょう。

う。知花さんに真意を尋ねると、「私の人生と音楽は不可分なもの。だからこそ、音楽以外のことは何をやっても気晴らしのようであまりし、料理だって紅茶だってかなりのレベルまで上達しました。でもね、それ以上は突き詰めようという気が起こらないんです。するとやっぱり、私には音楽しかないとを思い知らされるわけです。それを確認するために、次から次へといういろいろなことにチャレンジしているのではないかと、いう気さえしてきます。

知花さんは、特定のファンに送る月報「プリマベラ便り」の一昨年一月号で、「毎年毎年、音楽から歌う事から逃げたくなる時、他所の芝生は青い」ではないのだが、そこに一時的に逃げようと思つては又、元に戻ると言う生活をもう、何十年も繰り返している」との談に続けて、「もう良い声で歌うには残された時間が本当に少なくなりつつある、脇道にそれる事なく、一年を通して好きな歌たちと向き合う努力を今年の目標にしたい」と記しています。生まれ変わったときの話は酒飲み談義において、知花章さんとしてのもう一勝負をぜひ見たいと思うのは、知花さんと出会ったみんなの願いかもしれません。